

# 土佐希望の家通信

2021年9月15日発行

第99号

発行/社会福祉法人 土佐希望の家  
発行責任者/理事長 門田 正坦

## 家族の窓



3病棟  
中村 豪仁 保護者様

「会いたくて、会いたくて」  
令和3年2月、女優の室井滋さん作、絵・長谷川義文さんの絵本が小学館から出版されました。ホームに入所しているおばあちゃんに会いたくて孫の僕は会いに行く。僕、勝手におばあちゃんに会いに行つた。ホームでは、コロナかな？面会できず、でも毎日毎日おばあちゃんにバラを持って行った。だけど、おばあちゃんに会えない。次の日、おばあちゃんに会いに行く、おばあちゃん、トイレットペーパーの芯で糸電話を作ってくれ、おばあちゃんと話すことができた。という内容の絵本が出版されました。

私もそうですが、今はコロナウイルスがこの高知にも蔓延し、隣の人と話すことさえままならない。子どもに少しでも触れることを控え我慢して半年ほど子どもに触れることもできていない。皆さん思いは同じ。ほんの少しの触れ合いが欲しい。今、私達の子どもは施設に入所させてもらっており、希望の家分校に通学しています。仕事を待つ親にとっては、本当に有難い限りです。職員さんにも同じように、日々仕事をし、且つお世話をしなければならぬご家族さんがいらつしやると思っています。私の子ども豪仁は出生時より水頭症でシャントの機能不全があり、生まれて少ししてから神奈川の子ども病院に入院しました。入院も長期になり、高知と神奈川を行ったり来たりしました。入院も長くなると、私の疲労もピークになり、豪仁をストレッチャーから落としてしまったこともありました。遠方で回復の兆しもなく、一人でいることに疲れ、高知に帰ってからは、医大、医療センターでお世話になりました。遠い昔の話ですが、自分の仕事より、豪仁の体調が気がかりで仕事もやめざるを得ませんでした。

今、高校3年生になって体調を崩すことなく毎日の通学を一番の楽しみにしているようで親としては安心してはいます。これからもよろしくお願ひします。コロナの一日も早い終息を願っています。  
コロナなんてなくなつてしまえ！

## 「土佐希望の家の取り組みについて」

看護生活支援部部长  
在宅支援部部长

相談支援所長

武政 友之

平素より、大変お世話になっております。

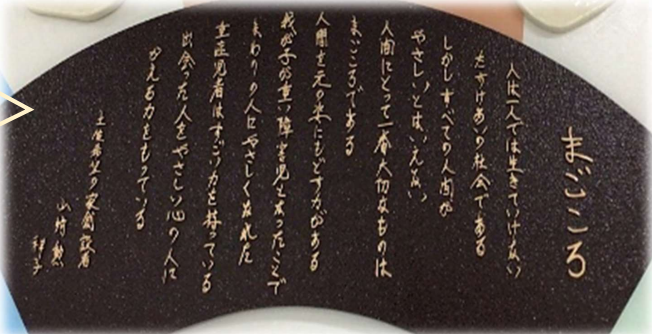
土佐希望の家医療福祉センター（以下、「当センター」という。）は、「利用者の生命、人間としての尊厳、及び権利を尊重し、良質な医療と豊かな暮らしを提供します。」を理念とし、昭和45年6月に重症心身障害児者施設「土佐希望の家」(定員50人)として設置認可を受け、以後入所希望に応じて定員増を図り、平成元年には「第二希望の家」(定員50人)を増設、平成18年には老朽化した第一希望の家を第二希望の家の隣に移転改築して、両施設を統合、平成30年に医療と福祉の機能を併せ持つ「土佐希望の家 医療福祉センター(定員140人)」に名称を変更、令和元年には短期入所拡充を目的に定員142人(2床増)となり、今年で開設51年目を迎えています。

この51年の歴史の中で、第一・第二希望の家の統合後の主な状況として、入所系では、年々、高齢化や重症化等が進み、なかでも医療的ケアを必要とする利用者は、平成20年に初めて人工呼吸器利用の方を受入れ(約1か月程度)、平成22年からは本格的に人工呼吸器への対応を開始、令和2年度には5人の方が人工呼吸器を利用しています。

また、この10年余りで気管切開の方は18倍(1人→18人)、胃瘻や経鼻経管栄養等の方は約5.7倍(8人→46人)、準超重症児者は3.5倍(10人→35人)、施設での看取りは約34.2%(平成18年からの令和2年度の平均値)、平均年齢は48.8歳(+5.0歳)となっています。



武政 友之



土佐希望の家ロビーにある山崎勲氏直筆「まごころ」の詩

## 3病棟 SARAの詩

入所者のペンネーム「SARA」さんが第2段の詩を寄稿してくれました。心がほっこりする詩をありがとうございます



【寄附】  
吉本 美代子  
大野 ヤエ  
久保 貴嗣  
中澤 寿子  
中村 猶代 (敬称略)  
職員一同お礼申し上げます。

通信編集委員  
委員長・副委員長決定!!!  
●委員長 1病棟 沖大輔 生活支援員  
●副委員長 通所 小崎誠也 生活支援員

【編集後記】  
6月に通信を発行し、様々なご意見をいただき、委員一同、次の通信発行に向けて意欲が湧いてきました。  
これからも希望の家の最新情報をお伝えしていきます。  
次号は令和4年1月発行  
（新年100号です。）  
お楽しみに！

今後とも重症化、高齢化には、しっかりと対応しつつ、豊かな暮らしの提供に努めてまいります。入所希望者(待機者)は不在の時期もありましたが、現在は、複数の方に希望していただいています。在宅系は、この10年余りで、短期入所が年間延771人増加(延457人→延1,228人)、通所関係では年間延1,457人増加(延3,393人→延4,850人/生活介護+放課後等デイサービス+児童発達支援)するなど、コロナ禍による一時的な減少はありませんが、年々増加傾向にあります。

こうした状況等から、現在、当センターは小児期から老年期までの入所や在宅支援の対応に加え、看取りや医療的ケア児者・発達障害等への幅広い対応に努めています。最近では在宅の医療的ケア児への支援の充実など、地域で安心して暮らすことができる様々なニーズへの対応が求められています。しかし、こうした状況等は決して順風満帆なことばかりでなく、これまで種々の問題や課題等が生じ、なかでも医師不足等から生じた危機的な状況は、多くの方々の多大なご尽力やご協力等により、それを乗り越えることができたことは、忘れることはできない出来事であったと思われまふ。

そして、昨今は、その危機的状況から改善したばかりでなく、医療・福祉の体制は、これまでの歴史のなかで、最も充実し安定した状況とされています。現在は、新型コロナウイルス感染症の対策が重要な課題となっていますが、今後も、幾多の試験や問題・課題等が生じても、当センターの理念達成に向け、創設者の想い(まごころ)を忘れることなく、先人の方々が築き、伝承してきたことなどを踏まえ、全ての職員が一人として取り組んでいきたいと思ひます。皆さまの変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

## 厨房便り

夏の事になりますが、ピーマン・茄子、胡瓜など、たくさん夏野菜を頂きました。今回は、その時に頂いた茄子を使い、給食で提供した「なすのたたき」のレシピをご紹介します。



【なすのたたき】1人前

- 鰯 20g (鰯は焼いてほぐす・簡単にツナ缶でもOK)
- 茄子 50g (当施設では茄子と玉葱は蒸しています)
- 玉葱 10g
- 大葉 3g (刻んでタレに入れてもOK・上に散らしたら緑が映えてきれいです)
- ★タレ (にんにくすりおろし 2g 生姜すりおろし 0.5g 酢 6g 濃口醤油 4g 砂糖 2g)

蒸した茄子・玉葱・鰯を順番にのせてタレをかけるだけです。

(栄養課 柏井主任)

## わたしのお仕事

### 第2弾

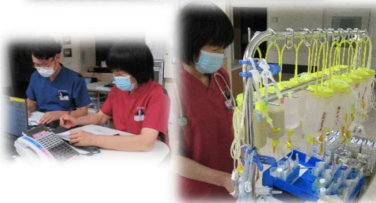
#### 2病棟 看護師の深夜勤務



2病棟では、51名の入所者さんが東西2つの棟に分かれて過ごしておられます。職員は大きく深夜(午前0時～午前9時30分)、日勤(午前9時～午後5時30分)、連夜(午後4時30分～午前0時15分)の3つの勤務に分かれて利用者のケアを行っています。深夜・準夜勤務では、東棟は看護師2名、西棟は看護師1名と生活支援員または看護助手1名の計4名で勤務をしています。今回は、看護師の東棟の深夜勤務について紹介します。

午前0時、前勤務者から利用者さんの状態について引き継ぎを受けます。引き継ぎが終わったら、受け持ち入所者さん一人ひとりを順番に回りながら、異常が無いかなどの観察、体温などの測定、体位変換(体の向きを変える)、痰の吸引などを行います。その後詰所に戻り、朝の薬の準備(全員が経管栄養の方なので錠剤をつぶしたり白湯で粉薬を溶かす)や電子カルテの入力をしていくと、心電・SPO2モニターのアラームが鳴るので、吸引などの対応を適宜行います。

休憩をはさんで、受け持ち入所者さんのオムツ交換と体位変換、吸引などを行います。この時には、西棟の生活支援員または看護助手さんも応援に来てくれて一緒にいきます。



終われば順番に経管栄養を始めいきます。経管栄養は西棟の深夜看護師がまとめて作ってくれています。経管栄養用のポンプを使う方も多くなってきました。朝の薬を注入し、経管栄養が終わった方から片付けます。このころになるとあたりは明るくなり、天気の良い日は朝日が見えてとてもきれいです。

片付けが終わると、体位変換、吸引などをまた順番に行っていきます。その他と電子カルテの入力を行います。8時ごろに便秘の方の浣腸などの処置を行い、西から応援に来てくれた生活支援員または看護助手とモニタングケア(歯磨き・顔拭き)を行います。9時に日勤の職員が出動するので利用者さんの状態について引き継ぎをし、勤務終了となります。東西4名の職員みんなで協力して夜勤を行っています。

(2病棟 西村看護師)

### 【重症心身障害児者 医療的ケア児等支援センター】

#### 「きぼうのわ」

トータルコーディネーター

林 恵 相談支援課 課長

重症心身障害児者医療的ケア児等支援センター(以下きぼうのわ)は高知県子ども福祉政策部障害福祉課からの委託を受け、令和3年4月、土佐希望の家医療福祉センター内に開所しました。

「きぼうのわ」では重症心身障害のある方や、医療的ケアの必要な方とご家族が、地域で安心して暮らしていけるよう、医療的ケア児とその家族はもちろん、医療機関・市町村などの関係機関からの相談に応じます。また、医療的ケア児等コーディネーター(医療的ケア児等と、その方に必要な医療・福祉・教育等の社会資源がつながるよう、ご本人・ご家族の意思決定の支援を行う)の派遣調整や、支援機関等との連絡調整を行います。

現在、高知県には医療的ケア児等コーディネーターの資格を持った相談支援専門員・看護師・保健師などの支援者が約50人います。この方々との連携を図りながら、ご本人・ご家族・支援者と一緒に関わりについて考えていきたいと思っております。まずは「きぼうのわ」(下記)へご連絡ください。



きぼうのわ  
パンフレット  
希望の家  
窓口にお  
取りくだ  
さい。

#### 「きぼうのわ」連絡先

(電話) 088-802-8250

(E-mail)

kibounowa@tosakibou.jp



### 【新型コロナウイルスに対する 取り組み②】

当センターでは、6月中旬から65歳以上の利用者さんに対して新型コロナウイルスワクチン接種が開始されました。7月に入り2回目のワクチン接種を行い、微熱や接種部の疼痛などの軽い副反応が出現した方が若干名いましたが、大きな副反応はなく無事に終了することができました。

また12歳以上64歳以下の利用者さんに対してのワクチン接種も7月中旬から開始しており8月中旬に2回目の接種を終了しました。当センターおよび県民のワクチン接種状況をみながら、高知県の感染状況がある程度収束してきたことが確認できたら、感染対策を徐々に緩和していきたいと考えています。

今後も引き続き、利用者さんにとって快適な環境を提供できるように取り組んでいきたいと思っております。

(3病棟 酒井看護師長)





## ダーツ大会をしました。

### 1 病棟



1・2・3...  
ダーツ!!

誕生日会でダーツ大会をしました。男性女性に別れチームを作り点数を競いました。倒したり、転がしたりそれぞれ好きな方法でダーツを的に投げました。3倍ゾーンにダーツが止まると盛り上がりました!

(1 病棟 沖生活支援員)

### 2 病棟



6月20日2病棟の運動会が開催されました。カエルチームとカタツムリチームの2組に分かれて3種目の競技を争いました。スペシャル応援団としてカタツムリの国からまつしたカタツムリ、たけむらカタツムリが、カエルの国からさわむらカエルとくまざわカエルが来てくれました。両チーム、一生懸命頑張り各種目接戦で、今年はカタツムリチームが優勝しました。来年はどのチームが優勝するかどんな応援団が来てくれるか楽しみです(^\_^)

(2 病棟 北岡生活支援員)

### 3 病棟



3病棟の取り組みは3つあります。その中の一つ「カルチャークラブ」の紹介をします。カルチャークラブと聞いてピンとこないと思います。中身は絵画や壁画作成、写真、手芸など。文化的な取り組みをするグループなので「カルチャークラブ」と名付けました。取り組みの内容として基本東西に分かれ、西のひまわり棟は壁画作成、東のあざみ棟は絵画・写真・編み物をしています。利用者さんは東西関係なく取り組みに参加しています。壁画は季節のものを題材にテーマを決めて、テーマに沿ったものを利用者さんと一緒に作り壁に大きく貼り季節を感じています。絵画は自分で内容を決めてコツコツとえがいたりして完成した作品を「障がい者県展」に出品したこともあります。最近内容の見直しをして壁画に飾る題材の塗り絵や絵を描くなどをして壁画を盛り上げてくれています。編み物は編み機を使って毛糸のたわしを作り、販売をしています。愛用してくれている職員もたくさんいます。新たな取り組みとしてネットに紐を通してバックやコースターを作る取り組みも始めていますが、まだ最初なのでいずれ見ってもらうことを目標に取り組んでいます。3病棟に散歩などで来た時には、壁画など見てもらって季節を感じてもらえたらと思っています。

以上、3病棟カルチャークラブの紹介でした。(3病棟 柳村生活支援員)



皆さん、初めまして。土佐希望の家通所に併設している、放課後等デイサービスです。主に敷地内にある希望の家分校へ登校している児童の方たちが利用しています。春休み、夏休み、冬休みの時期にも利用されています。写真でも分かると思いますが、笑顔の素敵な生徒さんばかりです。そして元気一杯で、その笑顔とパワーに職員も癒されています。これからも、心と体が健康やかに成長していく事を願っています。これからもよろしくお祈りします。

(通所 小崎生活支援員)

### 通所

